

# 長生きを喜べる長寿社会の実現

～生きがいのある高齢者を増やす～

財団HPはこちらからご覧ください。

<https://www.tyojyu.or.jp>

長寿科学振興財団

検索



QRコードから簡単に  
アクセスできます

## 所在地



〒470-2101  
愛知県知多郡東浦町大字森岡字源吾山1-1  
あいち健康の森健康科学総合センター 4F  
(あいち健康プラザ内)

TEL:0562-84-5411 FAX:0562-84-5414  
E-mail:soumu@tyojyu.or.jp

### 〈アクセス〉

- ・JR名古屋駅から  
JR東海道本線（上り）「大府駅」下車
- ・JR大府駅西口から知多バスで乗車  
「長寿医療センター-森岡台循環」または「げんきの郷」行き
- ・「あいち健康プラザ」下車



公益財団法人長寿科学振興財団

令和5年度版



公益財団法人長寿科学振興財団  
The Japan Foundation for Aging and Health

# 長寿科学の振興を通じ、生きがいがあり、 長生きを喜べる長寿社会を実現してまいります。

## 理事長挨拶



大島 伸一

理事長を務めることになり、皆様方に御挨拶を申し上げますとともに、あらためて、長寿科学振興財団に求められるもの、私の役割とは何かについて考えてみました。当財団が発足したのは平成元年で、ナショナルセンターである国立長寿医療センター（当時）の設立を想定して、それを支援するための財団として設立されたものと理解しています。

来るべき高齢社会に向け、どのような問題・課題が生じるのか、それに対しどのように対応してゆけばよいのか、国としてすでに準備を進めていたものであり、現在の日本、世界の状況を考えると、諸先輩方の慧眼に驚かされます。六番目のナショナルセンターとして国立長寿医療センターが設立されたのは平成16年で、常陸宮殿下妃殿下、厚生労働大臣、愛知県知事らをお迎えして開設記念式典が催されました。初代の総長として選任された私が、当財団と深く関係するようになったのはこの時からです。

国立長寿医療センターは、平成22年に独立行政法人となりましたが、今でも国立の名称が残っているように、国民のためにというセンターの使命は変わらず、政策医療への提言などを主要な使命としていることには変わりはありません。因みに、現在の正式の名称は、平成27年から国立研究開発法人国立長寿医療研究センターとなっています。ナショナルセンターの独立行政法人化とともに、財団と国立長寿医療研究センターの関係は法

的には変わりましたが、両者が協力して高齢問題に取り組むという使命や目的は変わっていないと考えています。

すさまじい勢いで高齢化の進んでいる我が国で、財団に求められていることは何か。認知症とかフレイルなど、老化とともに進展する人の肉体的、精神的変化をはじめ、高齢者が増えることにより生ずる社会の変化、生活の変化にどう対応してゆけばよいか、人類が経験したことがなく、どこにも答えのないこれらの問いにどう財団は立ち向かえばよいのか。

東日本大震災や豪雨による水害等では、多くの高齢者が亡くなりました。高齢になれば虚弱化するといえはそれまでですが、自力で生活できないという意味では、高齢者よりも乳幼児の方がはつきりしています。乳幼児の場合は、親と共に生活していることもありますが、親が必死になって守ります。老々・独居が当たり前の居住形態では、高齢者を守るのはますます難しくなるでしょう。

また、新型コロナウイルス感染症の流行でも死者で圧倒的に多いのは高齢者です。諸外国ではICU等での救命機器の使用の優先度を決めなくてはならないなどといった事態まで生じているようですが、そのような時に高年齢という要因がどのように評価されるのか。高齢者にとって安全で住みやすい高齢社会とはどんな社会なんだろうかと考えざるを得ません。

私は「長生きを喜べる社会」という言葉が好きでこれまでも何度も使わせてもらっていますが、この言葉は、小泉純一郎元首相が二期目の所信表明演説で使用された言葉です。小泉元首相は「長生きを喜べる社会」とはどんな社会なのか、その時もその後も詳しく触れることなく政権を終え、私には不満でしたが、実際にはその答えは当時も今も誰も解っていないというのが正解でしょう。

日本に生まれ育ち、そして老い死んでゆく、より多くの方が人生を終えるときに、いろいろあったが「長生きしてよかった」と言えるような社会とはどんな社会なのか。当財団がその答えの一端でも示すことに貢献できればと思っています。よろしくお願い申し上げます。

## 長寿科学

長寿科学は、長生きを喜べる長寿社会づくりの基盤となる学問です。

老化メカニズム（人はなぜ老いるのか）の解明、高齢者特有の疾病の原因解明と予防・診断・治療、さらに高齢者の社会的・心理的問題の研究等、高齢者や長寿社会に関し、自然科学から人文社会科学に至るまでの幅広い分野を総合的・学際的に研究する学問を「長寿科学」と呼びます。

## 財団ビジョン

長生きを喜べる長寿社会の実現～生きがいのある高齢者を増やす～

当財団では、長生きを喜べる・生きがいのある人生とするための課題解決となる研究開発・社会実装を行い、政策提言に向けた事業を実施します。人生100年時代において、ひとりひとりが最期まで生きがいのある心豊かな人生を送ることができる社会の実現を目指します。

## 事業

財団ビジョン実現のため、長寿科学に関する2つの公益事業（研究の助長・奨励・研究成果の普及）を展開しています。

### 公益1：長寿科学研究等支援事業

長寿科学に携わる研究者に対して、その研究費などを財政面から支援します。

- ①長寿科学研究者支援事業
- ②長寿科学関連国際学会派遣事業
- ③若手研究者表彰事業

## Longevity Science (長寿科学)

### 公益2：情報提供事業

長生きを喜べる長寿社会の実現のため、長寿科学研究の成果や健康長寿に関する情報を広く国民に提供します。

- ①業績集の発行事業
- ②機関誌の発行事業
- ③健康長寿ネット事業
- ④長寿たすけ愛講演会開催事業
- ⑤長寿科学研究普及事業

長寿科学研究者支援事業

指定課題研究

認知症の発症や進行の仕組みの解明、予防法・診断法・治療法等の研究開発を推進するため、「認知症発症予防介入戦略拠点」の構築を目指し、これに必要な認知症の全体像の把握を可能にするためのデータベース構築を支援します。

令和3年度採択プロジェクト

「認知症発症予防介入戦略拠点の構築のための研究」  
認知症におけるデータベース構築手法の研究

- 研究代表者：新飯田 俊平 (国立長寿医療研究センター 研究推進基盤センター長)
- 研究期間：令和3年度～令和5年度
- 助成額：90,000,000円 (予定)

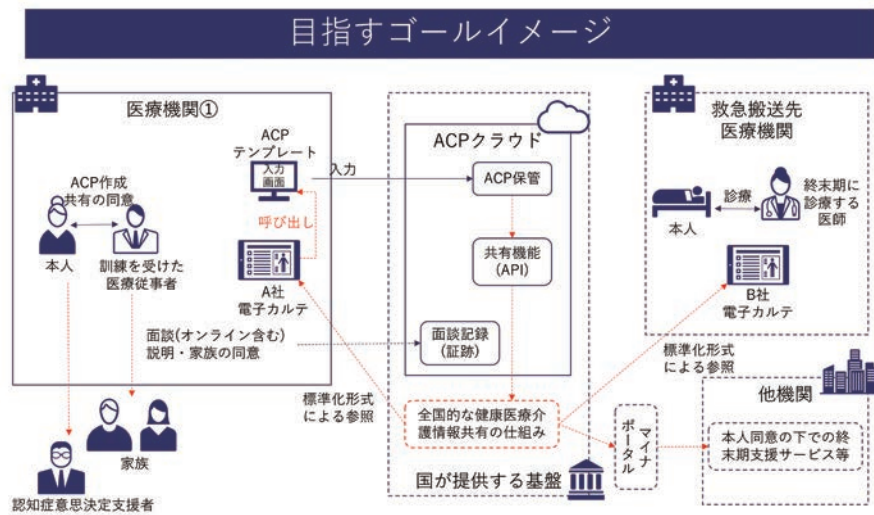
長生きを喜べる長寿社会実現研究支援

令和4年度から、財団ビジョンを実現するため、課題解決となる研究開発から本格的な社会実装まで取り組む課題解決型のプロジェクトを採択し、支援しています。

令和4年度採択プロジェクト

① アドバンス・ケア・プランニング推進のための共通ICTプラットフォーム構築  
～どこで療養していても高齢者本人の意思が尊重される社会作り～

- プロジェクト代表者：三浦 久幸 (国立長寿医療研究センター 在宅医療・地域医療連携推進部 部長)
- 採択分野：探索研究 (2年間)
- 助成額：20,000,000円 (予定)

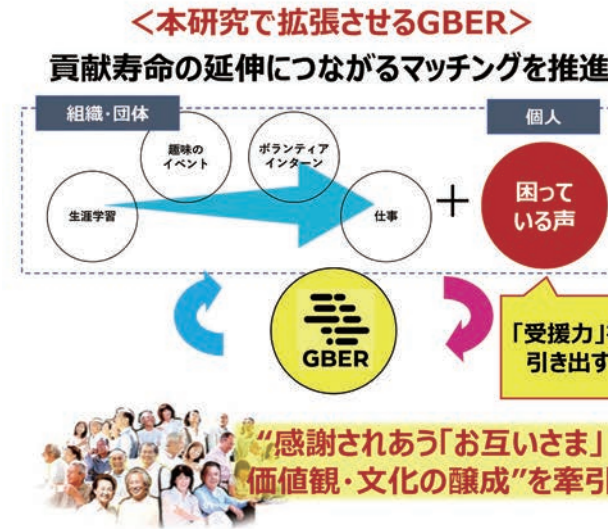


誰もが求める「自分らしく生ききる」ことができるように、本人の意思決定支援、すなわち、アドバンス・ケア・プランニング (ACP) の充実を推進するため、どこで療養していても本人の意向に沿った治療・ケア、緩和ケアが実践され、最期の療養場所についても本人の意向が尊重・共有されるための日本国内の共通ICTプラットフォーム構築を目指しています。

② 貢献寿命延伸への挑戦!

～高齢者が活躍するスマートコミュニティの社会実装～

- プロジェクト代表者：檜山 敦 (一橋大学大学院 ソーシャル・データサイエンス研究科 教授)
- 採択分野：実装研究 (3年間)
- 助成額：90,000,000円 (予定)

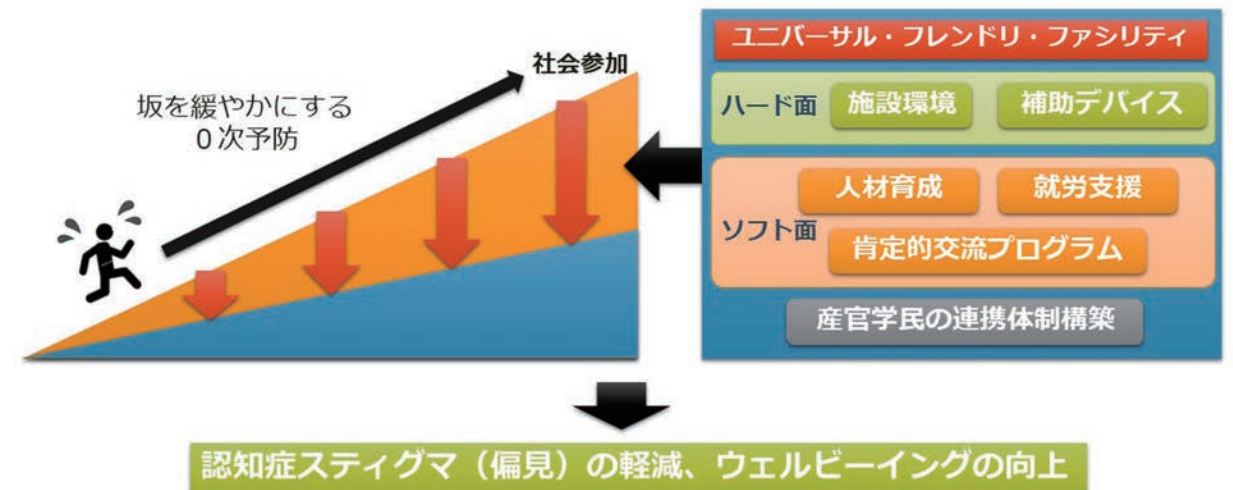


地域の中で役割や居場所を探す高齢者と、仕事やボランティア、生涯学習など様々な地域活動また、サポートを求める住民の声を有機的につなぐ情報プラットフォームとしてGBER (ジーバー) を研究開発し地域での社会実装に取り組んでいます。  
本プロジェクトでは、GBERの機能を拡充し、各地域から抽出されたニーズを総合して、高齢者の活躍・貢献領域を拡大することを目指しています。

令和5年度採択プロジェクト

ユニバーサル・フレンドリ・ファシリティが認知症の人と地域住民の  
社会参加向上とスティグマ軽減、ウェルビーイング向上にもたらす効果検証

- プロジェクト代表者：斎藤 民 (国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部 部長)
- 採択分野：探索研究 (2年間)
- 助成額：20,000,000円 (予定)



産官学民の連携により、認知症などで社会生活機能に低下のある人々や地域住民が自然に参加したくなる施設を作り出すことで、認知症への偏見を減らし、誰もが幸福で健康に過ごせる社会を目指しています。

# 長生きを喜べる高齢社会課題解決研究および社会実装活動への助成採択プロジェクト社会実現研究支援

Googleの慈善事業部門であるGoogle.orgの支援を受け、高齢者のデジタルデバインド解消、デジタル技術を用いて地域コミュニティの創出や高齢者ボランティアの育成・雇用創出等に取り組む、大学、研究機関、自治体等を支援します。

## 採択プロジェクト

### ① 高齢者のスマートフォン利用促進を介したアクティブコミュニティの形成



- プロジェクト代表者：島田 裕之  
(国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学センター・センター長)
- 研究期間：2年間
- 助成額：49,998,000円(予定)

高齢者に対してスマートフォン利用促進のための教室を地域ボランティア(デジタルヘルス推進員)を介して開催し、アプリを活用して高齢者の活動性向上を支援するコミュニティを形成し、健康寿命延伸に対する効果を検討することを目的とするものです。

### ② "学び合い"プログラムを用いたデジタルスキルラーニング・エコシステムの開発と実装 ~多世代型互助によるスマート・インクルージョンの実現~



- プロジェクト代表者：瀧 靖之  
(東北大学 スマート・エイジング学際重点研究センター・センター長)
- 研究期間：2年間
- 助成額：50,000,000円(予定)

より多くの高齢者が社会とのつながりを感じつつ、楽しくデジタルリテラシーを向上するために、高齢者のニーズ調査し、修得プロセスが生きがいの創出・ウェルビーイングの向上に寄与するエコシステムを開発します。  
この方策の持続可能性を実現し社会実装します。

### ③ 「ジョブボラ」の創出とデジタルマッチングの実装に向けた研究：誰もが活躍できる社会を目指して



- プロジェクト代表者：村山 洋史  
(東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加とヘルシーエイジングチーム・研究副部長)
- 研究期間：2年間
- 助成額：50,000,000円(予定)

高齢者と仕事・ボランティア(ジョブボラ)のマッチングを高めるため、高齢者にとって使いやすいアプリ開発に加え、多種多様なジョブボラの機会を提供し、ジョブボラ機会の獲得を支援する仕組みを構築します。  
他地域での普及・展開を見据え、一連の成果をリーフレットにまとめます。



## 高齢者のデジタルデバインド解消プロジェクト始動発表会



プロジェクト代表者：前列左から島田裕之氏、瀧靖之氏、村山洋史氏



長寿科学振興財団 理事長 大島伸一



Google日本法人代表 奥山真司氏



(当時)内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局審議官 布施田英生氏



厚生労働省老健局老人保健課長 古元重和氏



審査評価委員会副委員長 葛谷雅文氏

令和5年3月23日名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、「高齢者のデジタルデバインド解消プロジェクト始動発表会」を開催しました。  
開会にあたり、Google日本法人代表の奥山真司氏よりビデオメッセージが寄せられました。またご来賓として、布施田英生氏(当時)内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局審議官)、古元重和氏(厚生労働省老健局老人保健課長)にご出席いただきました。  
各プロジェクトの発表の後に交流会が開かれ、プロジェクトを横断した名刺交換、歓談の賑やかな時間となりました。

※発表会の詳しい内容はこちらをご覧ください。▶



## その他の事業

財団ホームページをご覧ください。▶



機関誌の発行事業

WEB版機関誌「Aging&Health (エイジングアンドヘルス)」を財団ホームページと健康長寿ネットにて年に4回(春・夏・秋・冬)発信しています。

主な内容

- 長寿に関わる研究について専門家が分かりやすく解説
- ご高齢になっても活躍されている著名人へのインタビュー
- 各地域で高齢者に関わる取り組みを紹介
- 長寿科学に関する最新研究情報
- エッセイ



健康長寿ネット事業

厚生労働省の助成を受けて、高齢期を前向きに生活するために必要な情報を提供し、日本の健康長寿社会の発展に貢献する目的で作られたWEBサイトです。

主なコンテンツ

- 健康長寿とは:自分でできる健康長寿のための情報について
- 高齢者の病気:高齢者に多い病気・症状について
- 高齢者を支える制度とサービス:介護保険制度や利用できるサービスなどを紹介
- インタビュー・対談・特集・研究情報:機関誌で取り上げた記事を紹介
- エッセイ:機関誌で取り上げたエッセイに加え、健康長寿ネットだけの連載エッセイを紹介



長寿科学研究普及事業

国立研究開発法人国立長寿医療研究センターとの連携により、毎年テーマを定め、長寿科学研究に関する国際シンポジウムを開催します。

- 令和5年度テーマ 高齢者の嚥下と排泄の障害

その他の事業

財団ホームページをご覧ください。



## 長寿科学振興財団の設立

政府は、平成元年12月に「高齢者保健福祉推進十か年戦略ゴールドプラン」を打ち出しました。この十か年戦略において、かねてより昭和天皇御長寿御在位60年慶祝事業の一環として検討されていた「国立長寿医療研究センター」の設置及び「長寿科学振興財団」の設立推進の方針が決定され、同年、当財団が設立されました。

### ●高齢者保健福祉推進十か年戦略（抜粋）「6長寿科学研究推進十か年事業」

- (1) 研究基盤充実のための国立長寿医療研究センターを設置するとともに、長寿科学研究を支援する財団を設立する。
- (2) 基礎分野から予防法・治療法の開発、看護・介護分野、更に社会科学分野までの総合的な長寿科学に関するプロジェクト研究を実施する。
- (3) これらにあわせて、将来の高齢化社会を担う児童が健やかに生まれ、育つための施策を推進することとし、とりわけ、生涯の健康の基礎となる母子保健医療対策の一層の充実について中長期的視野に立って検討する。

## ロゴマークの由来

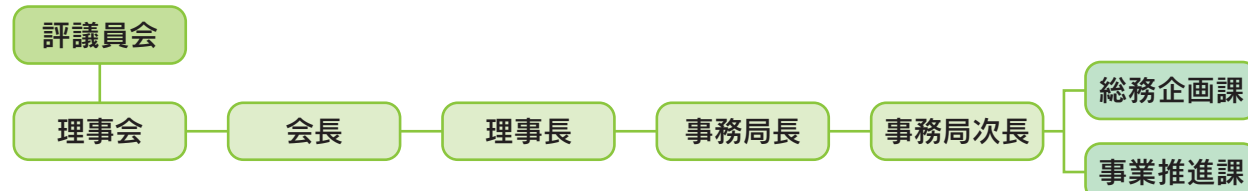


当財団は、昭和天皇御長寿御在位60年慶祝事業のひとつとして設立されました。また、昭和天皇の一周年祭に当たり、天皇陛下、皇太后陛下から、長寿科学研究推進に資する思召しにより、昭和天皇の御遺産から当財団に対して御下賜金が賜与されました。

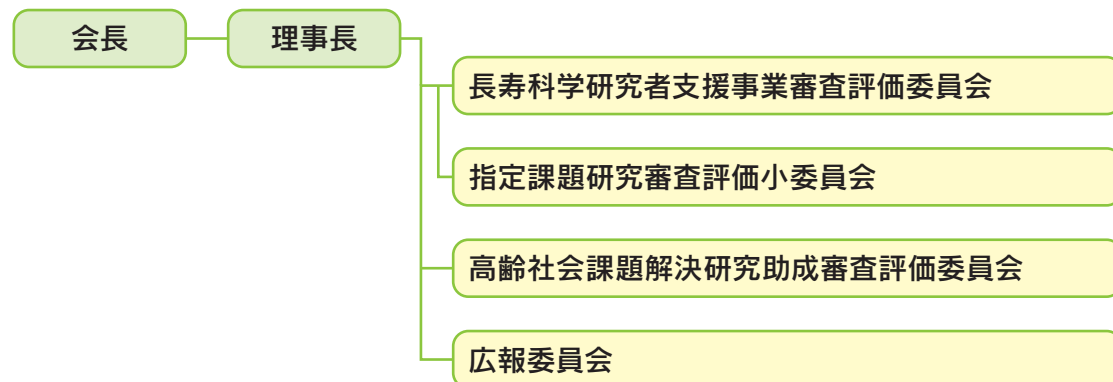
こうした経緯から、昭和天皇の宮中での御印が「若竹」でありましたことに因み、いつまでもみずみずしく若々しい心を象徴するものとして平成9年に作成されました。

## 組織

### ●組織図



### ●推進体制



## 沿革

平成元年12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政府は長寿科学研究推進事業として、センターの設立・支援財団の設置等を決定</li> <li>・財団法人長寿科学振興財団設立</li> <li>・初代会長 鈴木 永二</li> <li>・初代理事長 佐分利 輝彦 就任</li> <li>・政府は「高齢者保健福祉推進十か年戦略」（ゴールドプラン）を策定</li> </ul>
平成2年1月	・昭和天皇1周年祭に当たり、天皇・皇太后陛下より昭和天皇の御遺産から御下賜金の賜与
平成2年4月	・長寿科学研究センター創設準備室発足
平成6年12月	・政府は、現行の「高齢者保健福祉推進十か年戦略」を全面的に見直し「新ゴールドプラン」を策定して、高齢者の介護対策の更なる充実を図ることとした
平成7年6月	・二代会長 永野 健 就任
平成7年7月	・長寿医療研究センター運営開始
平成9年10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団本部を、あいち健康の森健康科学総合センター内へ移転</li> <li>・旧本部は、東京事務所に組織変更</li> </ul>
平成10年10月	・財団設立10周年記念式典挙行
平成11年12月	・政府は高齢者保健福祉施策の一層の充実を図るため、「ゴールドプラン21」を新たに策定
平成12年1月	・二代理事長 大谷 藤郎 就任
平成12・年3月	・国民的アイドルであった故成田さんさんの御遺族より、小淵総理大臣を通して御寄附を受納
平成13年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三代会長 奥田 碩 就任</li> <li>・天皇陛下より、香淳皇后の御遺産から御下賜金の賜与</li> <li>・政府は、「メディカル・フロンティア戦略」をスタート</li> </ul>
平成15年10月	・三代理事長 小林 秀資 就任
平成16年3月	・国立高度専門医療センター（ナショナルセンター）として、国立長寿医療センター開設
平成17年4月	・「健康メディカル・フロンティア戦略」がスタート
平成18年6月	・四代会長 柴田 昌治 就任
平成19年4月	・「新健康フロンティア戦略」がスタート
平成22年3月	・四代理事長 祖父江 逸郎 就任
平成22年6月	・五代会長 渡辺 捷昭 就任
平成23年3月	・東京事務所を本部へ統合
平成23年4月	・公益財団法人へ移行
令和元年12月	・財団設立30周年記念式典挙行
令和2年7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・五代理事長 大島 伸一 就任</li> <li>・名誉理事長 祖父江 逸郎 就任</li> </ul>

## 評議員名簿

令和5年6月30日現在

秋山 弘子	東京大学名誉教授	(50音順)
大熊 由紀子	国際医療福祉大学大学院教授	
伍藤 忠春	社会福祉法人全国心身障害児福祉財団理事長	
下田 智久	公益財団法人日本健康・栄養食品協会顧問	
鳥羽 研二	東京都健康長寿医療センター理事長	
藤宋 和香	アズビル株式会社社外取締役	
本田 麻由美	読売新聞編集委員	
柵木 充明	公益社団法人愛知県医師会会長	
樂木 宏実	独立行政法人労働者健康安全機構大阪ろうさい病院病院長	

評議員 計9名

## 役員名簿

令和5年6月30日現在

会長	非常勤	渡辺 捷昭	公益財団法人長寿科学振興財団会長	(50音順)
理事長	//	大島 伸一	国立長寿医療研究センター名誉総長	
理事	//	荒井 秀典	国立長寿医療研究センター理事長	
	//	井口 昭久	愛知淑徳大学健康医療科学部教授	
	//	井藤 英喜	東京都健康長寿医療センター名誉理事長	
	//	江澤 和彦	公益社団法人日本医師会常任理事	
	//	大内 尉義	国家公務員共済組合連合会虎の門病院顧問	
	//	加賀美 幸子	千葉市男女共同参画センター名誉館長	
	//	児玉 善郎	日本福祉大学学事顧問 社会福祉学部教授	
	//	齋藤 英彦	国立病院機構名古屋医療センター名誉院長	
	//	佐藤 眞一	大阪大学名誉教授 大阪府社会福祉事業団特別顧問	
	//	鈴木 みずえ	浜松医科大学臨床看護学講座教授	
	//	田代 俊孝	仁愛大学学長	
	//	辻 哲夫	東京大学高齢社会総合研究機構 未来ビジョン研究センター客員研究員	
	//	濱口 道成	先進的研究開発戦略センター(SCARDA)センター長 科学技術振興機構顧問	
	//	松本 一年	元愛知県保健医療局長	
	//	柳澤 信夫	一般財団法人全日本労働福祉協会会長	

理事 計17名

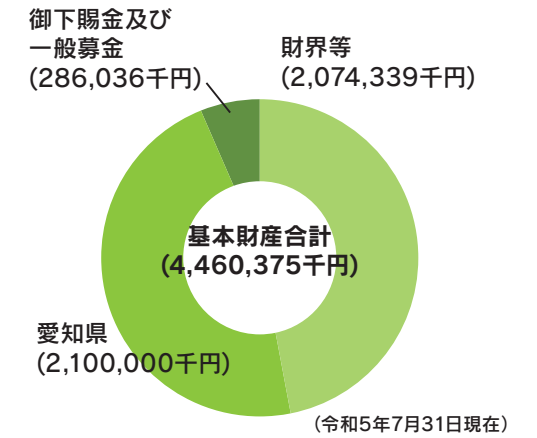
監事	非常勤	遠島 敏行	(公認会計士 税理士)
	//	岩田 義浩	(サッポロホールディングス株式会社 顧問)

監事 2名

## ご寄附のお願い

当財団では皆様から頂いたご寄附を基本財産として積み立て、運用することで得られた利息を原資とし、財団ビジョン「長生きを喜べる長寿社会実現～生きがいのある高齢者を増やす」の実現のため事業活動を行っています。  
皆様からの温かいご支援をよろしくお願いします。

## 基本財産造成状況

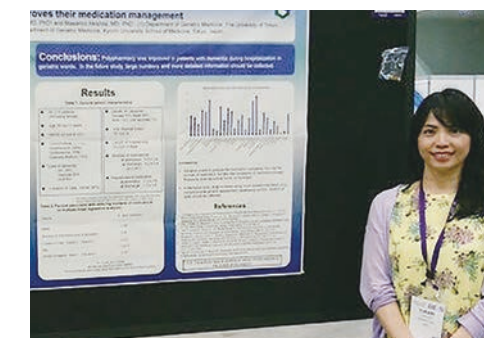


## 寄附金の使途

- 長寿科学研究に携わる研究者の育成と長寿科学の振興を図ることを目的に、長寿科学に貢献できるすべての分野の活動を幅広く支援します。  
平成20年度から令和4年度までに161件4億6,364万円を助成しました。
- 長寿科学研究に携わる若手研究者の育成を目的に、海外で開催される関連学会で研究成果を発表するための渡航費を支援します。これまでに110名総額2,653万円を助成しました。
- 長寿科学研究において優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰します。  
これまでに67名を表彰しました。
- 健康長寿情報や長寿科学研究成果を分かりやすく情報提供します。  
年に4回機関誌を発行(通算104号)・ウェブサイト「健康長寿ネット」の運営(1,750以上の記事を掲載)



長寿科学研究に携わる若手研究者の育成と長寿科学の振興を図ることを目的として、優れた研究成果をあげた研究者を表彰します。



長寿科学研究に携わる若手研究者の育成を目的に、国内で優れた研究成果をあげた若手研究者を海外で開催される学会において研究成果を発表するための渡航費を助成します。



長寿科学に携わる研究者に研究費の助成を行い、導き出された研究成果を取りまとめ、報告します。

## 寄附の方法

次の3つの方法からお選びください

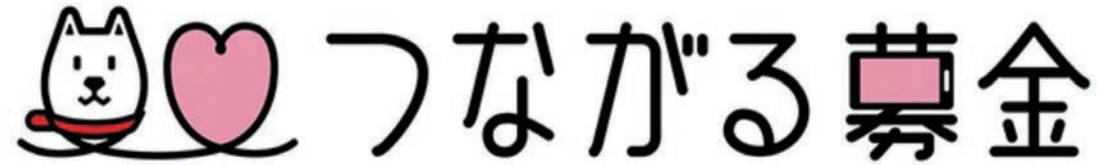
### ●つながる募金



SoftBankのスマホから  
ご利用料金とまとめて寄附



どなたでも可能  
クレジットカードで寄附



### ●銀行振込(寄附金振込先口座)

金融機関:三菱UFJ銀行(0005) 大府支店(344)

種別:普通預金 口座番号:1762379

口座名義:公益財団法人長寿科学振興財団 基本財産受入口 理事長 大島伸一

### ●郵便振替用紙(振込手数料不要)

当パンフレットに貼付の「郵便振替用紙」(振込手数料不要)をご利用下さい。

ご不明な点などございましたら下記までご連絡下さい。

《連絡先》総務企画課

TEL:0562-84-5411 FAX:0562-84-5414 E-mail:soumu@tyojyu.or.jp

当財団は、所得税法(所得税関係)、法人税法(法人税関係)および租税特別措置法(相続税関係)上の「特定公益増進法人」です。当財団への寄附金は、寄附金控除、損金算入等についての税法上の特典が受けられます。

寄附の詳細は、財団ホームページ(<https://www.tyojyu.or.jp>)をご覧ください。



## 全国にある趣深い竹林について情報提供をお願いします!

長寿科学振興財団では、財団のロゴマークの若竹にちなんでパンフレットの表紙に掲載する竹林の情報を集めています。孤高の美しさ、緑の息吹、静寂な風景など、あなたのおススメする竹林についての情報をお寄せください。竹林の名前、所在地、特徴、アクセス方法など、どんな情報でも歓迎です。また、竹林に関連する写真も大歓迎です!情報提供をお待ちしています!採用時には、竹林の場所・自治体等の紹介も併せて掲載いたします。

【連絡先】

長寿科学振興財団 総務企画課 担当  
soumu@tyojyu.or.jp



## 表紙

(写真:愛知県大府市観光協会提供)

### 【大倉公園】



大倉公園の竹林

愛知県大府市にある大倉公園は、日本庭園風の公園で、約1.7haを有しています。

大正6年または大正8年に大倉和親氏により、別邸として築造されたもので、昭和2年には賀陽宮恒憲皇(第3師団騎兵第三連隊長)がこの大倉別邸に滞在されたといわれています。

公園内には、茅葺門、休憩棟、ひょうたん池、あずまや等があります。

四季折々の自然を優雅に楽しめる場所で、特につつじの花の季節は多くの方が訪れ、つつじまつりが行われます。



大倉公園について  
詳細はこちらから



大倉公園入り口の茅葺門

大倉公園の入り口には茅葺門があり、その堂々たる佇まいが訪れる人の目を引きまします。高さ5m、幅13m、奥行き4mあり、大正10年に建造された歴史的な建物です。平成21年、26年には岩手県遠野市の職人の協力で屋根材のふき替えを行い、平成27年に国の登録有形文化財に指定されました。